



愛知 13 区

碧南・刈谷・安城・知立・高浜

前衆議院議員

タイトル

3 党合流、白紙



おおにし健介

1. 合流には無理があった

立憲民主党、中道改革連合、公明党の3党の代表は、秋の臨時国会には新体制で臨むために、党の合流に向けた協議について、「8月末をめどに結論を得る」としていましたが、8月28日、立憲は中道改革連合への組織的な合流を行わないという結論を中道、公明の代表に伝え、3党合流は白紙となりました。

年明けの高市首相による電撃解散を受けて、「このまま総選挙に突っ込めば半減する、ここは公明党と一緒に戦うしかない」としたその時点での政治判断を全否定するつもりはありませんが、半減どころか立憲は7分の1になったという結果が出た以上、その試みは失敗であり、総選挙で有権者は、明確なNOの審判を下したのです。

落選後、私が地域をまわっていても「中道で戦ったことが失敗だった、立憲のまままで戦えば負けてもあそこまでは壊滅的な結果にはならなかったのではないか」という意見が多いです。公明党との連携には異論はないものの、中道への3党合流を望む声はほとんどありません。

私も公明党の議員の中には、個人的に仲の良い議員はたくさんいて、彼らの優秀さ、誠実な人柄には尊敬の念を持っています。また、統制のとれた支援組織の活動や真摯で真面目な姿勢には心から敬意を抱いています。

一方で、もともとの党の体質が違いすぎ、無理矢理合流しても上手くいかないのではないかとこの間、感じてきました。

立憲では、総選挙の際、地方組織の意見を聞くことなく中道が結党されたことの反省に立ち、全国11ブロックで会議を開き、47都道府県連から丁寧に意見を聴取してきましたが、合流には慎重な意見が大勢を占めました。

また、我々、落選者有志の意見交換の場でも、合流には慎重な意見が多く、皇室典範改正や沖縄県知事選挙への対応をめぐる公明党とのズレを懸念する声や、特に、立憲の参議院議員が合流しない場合に、公明の参議院議だけが合流する案には、公明党色が強くなり過ぎると明確な反対意見がありました。

世論調査を見ても、「全員が中道に合流し、1つの政党になるべきだ」というのは19%に過ぎず、「参院議員らは合流せず、今のまま3つの政党を残すべきだ」が17.9%。そして、「合流は全て取りやめ、元の立憲と公明に戻すべきだ」が51%と合流に反対の意見が多数を占めていました。

仮に、このタイミングで無理矢理合流していたら、漏れる人が出ることは必至で、彼らが「シン立憲民主党」をつくった場合に、彼らこそが筋を通した人たちで、合流した人々は選挙目当てで筋を曲げた人々となってしまう可能性があります。

立憲、公明の両党は、来春の統一地方選挙では、別々の政党として戦うことを既に決めており、8月末で期限を切って組織的な合流についての結論を得るというスケジュールにそもそも無理があり、この結果はやむを得ないというのが私の率直な受け止めです。



2. 中道解体を野党再編の引き金に

3党合流が頓挫した以上、では、次にどうするかが重要になります。今後、秋の臨時国会、年末に向けて、様々な動きが出てくると思います。

公明側では、既に公明出身の衆議院議員を中道から離脱させて公明党に戻すことも検討されています。そうなれば、衆議院議員21名だけで参議院も地方議員もいない中道改革連合は空中分解することになってしまうと思います。

では、その場合に、立憲出身の衆議院議員は、立憲民主党に戻るのかと言えば、21名の現職の中には、単純に立憲に戻る選択肢は取らないことを明言している議員が複数いると聞いています。

また、参議院立憲と分党新党を立ち上げ、公明党や国民民主党をはじめ幅広い野党の連携を模索すべきとの意見もあります。

一方では、落選した立憲出身の前衆議院議員らが護憲リベラル共生、通称「ゴリラ」という政治団体を立ち上げるなど新たな動きも出てきています。

しかし、中道が空中分解し、小さな野党がばらばらに存在するだけでは、巨大与党の対抗勢力にはなり得ません。私は、自民党以外に政権の選択肢のある政治、政権交代可能な緊張感のある政治の実現を目指して、政治の世界に飛び込んできました。その志は今も変わりません。高市政権の支持率が下がっても、野党に受け皿がなければ政治は何も変わりません。

合流を見送った立憲の田名部幹事長も「政権交代を目指す力の結集に関しては、あらゆる選択肢がある」と述べていますが、私も同感です。私は浪人の身ですが、政権交代可能な緊張感ある政治に近づくためには、どうするのが最善の道を考えて行動していきたいと思います。

プロフィール

- ▶ 昭和46年生まれ、京大法卒
- ▶ 参議院事務局、在米大使館、馬淵澄夫代議士政策秘書

- ▶ 2009年政権交代選挙で初当選以来、連続6期当選するも、2月の総選挙にて惜敗
- ▶ 国会では、予算委員会、厚生労働委員会、党務では、選対委員長として活躍